

2016年度の資金運用結果について

2016年度の世界経済は、米国経済の足踏みや中国経済の失速懸念から一時減速する局面もありましたが、年度後半には再び拡大に向かうなか、日本経済も緩やかながら成長を持続しました。こうした経済情勢下、国内の長期金利はマイナス金利を脱したもののゼロ金利近辺で推移、為替相場も1ドル=100円台の円高水準から118円台の円安水準まで大きく揺れ動く投資環境のなかでの資金運用となりました。

このような投資環境において、本学では「2016年度資金運用方針」に基づき資金運用に臨みましたが、当初計画していたポートフォリオを構築するまでには至らず、2016年度の運用収益は、約7.6億円（利回り約2.2%）となりました。

以下に2016年度の運用結果について簡単にご報告いたします。

1 国内債券

国内債券については、将来の金利上昇を考慮しつつ、国債・政府保証債は期間10年でのラダー型ポートフォリオ（注）、地方債、財投機関債、事業債は期間5年でのラダー型ポートフォリオの構築を計画しましたが、短期及び中期金利に加え、長期金利においてもマイナスからゼロ金利近辺での推移が継続したため、計画したポートフォリオを構築するには至りませんでした。国内債券による運用収益は、約1.1億円（利回り約0.5%）となりました。

（注）各償還年限の割合が均等となる銘柄から構成されるポートフォリオ

2 外国債券

外国債券については、基準為替レートを超える円高・ドル安水準の時に新規購入を行い、償還金額の範囲内での外債購入も行いました。外国債券による運用収益は、償還による為替差益を含めて約6.0億円（利回り約9.1%）となりました。

3 国内株式

現に保有している国内株式による運用収益は、約0.2億円（利回り約3.0%）となりました。

4 その他

現に保有している仕組債等による運用収益は、約0.3億円（利回り約0.8%）となりました。

以上